

研 究 分 野	資源管理	部 名	漁業開発部
研 究 課 題 名	沿岸魚類資源動向調査（ヒラメ稚魚分布密度調査）		
予 算 区 分	県単 漁業調整費		
試験研究実施年度・研究期間	H.11～		
担 当	吉田 雅範		
協 力 ・ 分 担 関 係	なし		

〈目的〉

本県沿岸域における天然ヒラメ着底稚魚を対象に試験操業を行い、継続的に分布密度を把握し、天然ヒラメの資源動向把握に資することを目的とする。

〈試験研究方法〉

調査地点を図1に示した。民間船を使用し2ノット前後の速度で表1のとおり桁網（水工研Ⅱ型）を曳き、入網した底魚類を氷冷またはアルコール固定した後、種ごとに尾数と重量を測定した。ヒラメ稚魚については原則として50個体/調査地点の全長、体重を測定した。なお、曳網距離はGPSで求めた。

〈結果の概要・要約〉

表2に2005年の調査地点別採捕密度を示した。漁獲効率を0.28として水深別の平均分布密度を求め、その年の最高値を着底指数として、比較検討を行った。図2に着底指数の推移を示した。2005年の着底指数は日本海が2,975個体/haと過去2番目に高く、太平洋が475個体/haと2004年、1999年に次いで過去3番目であった。

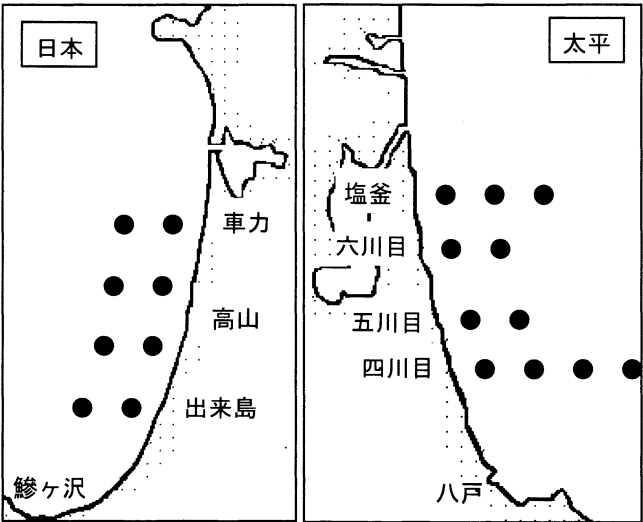


図1 調査地点

表1 2005年の調査方法

	日本海	太平洋
調査月日	2005年7月20日、8月9日、9月6日	2005年7月25日、8月30日、9月13日
調査水深	5m、10m	5m、10m、15m、20m
曳網時間*	10分	10分、水深15m及び20mは5分

* 原則として

〈主要成果の具体的なデータ〉

表 2 調査地点別採捕密度（個体/ha）

日本海

調査日/場所	5m				10m			
	出来島	高山沖南	高山沖北	車力沖	出来島	高山沖南	高山沖北	車力沖
7月20日	463.0	-	194.4	247.4	624.7	433.7	488.4	237.5
8月9日	972.6	680.2	647.8	1,016.9	101.3	321.2	405.0	475.3
9月6日	64.3	117.9	55.7	73.9	18.0	26.4	58.9	24.4

太平洋

調査日/場所	5m				10m				15m		20m
	四川目	五川目	六川目	塩釜	四川目	五川目	六川目	塩釜	四川目	塩釜	四川目
7月25日	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.5	0.0	0.0	0.0	0.0
8月30日	116.7	95.3	187.1	87.9	165.6	211.7	96.1	87.5	124.0	13.3	0.0
9月13日	47.3	43.6	62.1	92.5	19.5	9.2	52.4	28.3	17.5	0.0	17.5

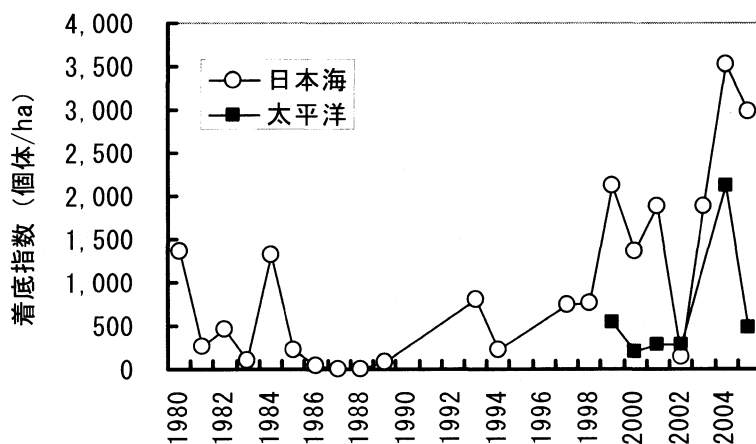


図 2 着底指数の推移

〈今後の問題点〉

ヒラメの浮遊期間、着底サイズ、アミ類の分布量等を調べる必要がある。

〈次年度の具体的計画〉

- ・ 同様の調査を行う。
- ・ ヒラメ稚魚発生量を決定する要因について調べる。

〈結果の発表・活用状況等〉

資源管理、栽培漁業を進めるうえで本調査結果を当年ヒラメ加入量として使用する。